

白川わくわくランド ニュース

第33号

発行

●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL (096) 346-5454
FAX (096) 346-5411
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

講演「大井手を守る会の過去・現在・未来」から

二〇〇八年一月十四日、渡鹿・鹿乃家で「大井手を守る会」の総会と肥後の水資源愛護賞受賞祝賀会がありました。それに先立って事務局長・沢田一郎氏の講演があり、「大井手を守る会の過去・現在・未来」と題するその講演を聞くことが出来ました。

「大井手を守る会」は、その前身である「ほたるの会」として昭和五十三年（一九七八）年発足以来、今年で三十年の活動実績がある団体です。

その間、その活動が認められ、「肥後の水資源愛護賞」を二度、「くまもと環境賞」・「環境美化教育実践優良市民団体賞」などを受賞しています。

沢田氏の話聞くなかで、この三十年の取り組みを続けるのに並々ならぬ苦労があったことを知りました。一九六〇年代、渡鹿地域では、下水は側溝から大井手に流し込む状況で、大井手は下水の流し場と化し、道路は舗装無しで沢田氏の言葉を借りれば、「七〇年代の渡鹿はスラム街の雰囲気」だったそうです。

それで、環境整備を第一の目標に活動を始めたそうです。当時、汚れた井手に蓋をして駐車場にしようという意見もあったそうです。しかし、昆虫の生息は人間が生活できるバロメータという科学的法則に沿って、「ホタルも命あるもの」ホタルが育つ井手づくりを目指し、命の大切さを子供に残そうという取り組みに発展していったそうです。

大井手の清掃や水質検査・ホタルの幼虫の育成など、年間通して活動を続けながら今後の活動方向を模索しているということでした。

講演後、熊本大学工学部の学生による「大井手を活かしたまちづくり」の演習発表もあり、大学生も一緒になった「大井手を考える」会になりました。「自分たちの地域は自分たちで守る」主体的な取り組みが、三十年も前からなされていることに敬服するとともに、防災・減災も含めた今からの地域づくりに活かしたいものと思います。



大学生の発表



講演する沢田氏

白川の橋(29)

弓削橋

河口から数えて29番目の橋。熊本市龍田町の県道235号益城菊陽線に架かる。右岸側龍田町弓削と左岸の弓削町を結ぶ。

橋長は65.7mで車道幅4.5m、専用の歩道はない。昭和31年3月に完成している。

このあたりの白川は、弓削橋より500mほど下流で、大きく左岸側に曲がり、川底や堤防近くに阿蘇熔結凝灰岩の大きな岩盤が見られる。



右岸上流より弓削橋をみる

● 白川野外美術展が、白川河川敷(世継橋～長六橋)左岸で、3月1日から21日まで行われました。本荘小学校児童の作品で、白川や三の井手の水環境や美化活動を作品にしたもの。子供の想いを絵画や俳句などにして表現しています。同じ作品を白川わくわくランドにも展示しています。

● 春の白川沿いを散歩しながら白川わくわくランドに作品を見に来てください。



白川わくわくランド寺子屋(1)

「白川河川敷で遊ぼう!」
「たこ」を作って河川敷であげてみよう!



日時 平成二十年一月十九日(土)
 十時~十二時

講師 NPO法人水辺楽校福祉ネット西原
 会長 井芹 博美 氏

場所 白川わくわくランド
 子飼橋付近 白川河川敷

参加者 三十五名

白川河川敷も、冬場になるとめっきり散歩する人の数が減ります。子供の姿はほとんどありません。「子供は風の子」寒風の中でも、広い河川敷を元氣一杯、風を揚げて走り回ってほしいとこの寺小屋を企画しました。

まず凧作りからスタート。凧の形は基本型の菱形で、材料はビニル袋と竹ひご・凧糸。講師から作り方の順序やポイントの説明を受け、作業を始めました。

子供たちは、凧型のビニルに思い思いの絵を描き、作り方のポイントを押さえながら作りました。竹ひごを張ったり、ひごとビニルを固定したりする手先の作業には苦戦しましたが、講師や大人の手を借りて作品を完成させました。

凧上げは、子飼橋左岸の白川河川敷。凧のバランスをとったり、尻尾の長さを調節したりしながら、参加者全員、青空高く凧揚げに成功。川風が微妙に向きをかえましたが、風の向きをとられるのも野外遊びをしないとわからないことです。着ていた防寒上着も脱ぎ捨てて河川敷いっぱい駆けました。

竹ひごは、地域の方が孟宗竹から作ってくださいました。日頃から地域の方の協力があつて子供向けの寺子屋が実施できることに感謝しています。



空高く揚がった凧



親子で組み立て



絵を描く



日時 平成二十年二月二十三日(土)
 十時~十二時

講師 日本野鳥の会
 白川中学校 田中忠先生
 麻生田小学校 宮崎謙二先生
 大江小学校 坂本幸恵先生
 白川わくわくランド周辺

参加者 二十名

白川わくわくランドの前や右岸河川敷に降りてバードウォッチング。1時間ほどで26種の鳥を確認した。望遠鏡による観察では、鳥の嘴や足・羽根などの形・色などを間近に見た。カラスがクッキーを水につけて柔らかくしながら食べる姿に参加者もびっくりした。

白川わくわくランドの研修室で、日本の国鳥・熊本県の県鳥・熊本市の鳥など、いろいろな鳥の話聞いた後、双眼鏡の使い方を学ぶ。一人一人双眼鏡を手に、ピントの合わせ方を実際やってみる。

白川わくわくランド寺子屋(2)
子飼橋周辺
バードウォッチング



メジロ



イソヒヨドリ

- 確認した鳥二十六種
- ・カイツブリ(潜りの名人)
 - ・アオサギ
 - ・コサギ(黄色の足がみえた)
 - ・マガモ
 - ・コガモ
 - ・ヒドリガモ
 - ・オナガガモ
 - ・ユリカモメ
 - ・イソシギ
 - ・キセキレイ
 - ・ハクセキレイ
 - ・セグロセキレイ
 - ・ヒヨドリ
 - ・ツグミ
 - (センダンの実を食べていた)
 - ・メジロ(梅の花に)
 - ・スズメ
 - ・ムクドリ
 - ・ハシボソガラス
 - ・イソヒヨドリ(珍しい鳥)
 - ・ツバメ
 - ・カワラバト
 - ・ヒメアマツバメ
 - ・イカルチドリ(対岸の河原で)
 - ・ホオジロ
 - ・アオジ
 - ・ウグイス(声のみ)



ユリカモメ

写真でみる2007年度寺子屋

2007年5月26日

立野と南郷谷の
自然を訪ねる



6月23日

みずでっほうを
作ってあそぼう！



6月29日

わくわく講座
「山と花と水と」



10月4日

わくわく講座
「白川の水辺空間から
《白川育ち》を求めて」



8月8日

黒川源流探検



7月29日

子ども
川の安全教室



10月27日

普賢岳噴火とその後
～1792年・1991年の災害から学ぶ～



11月10日

秋の
立田山を歩こう



12月8日

クリスマス・
新春クラフト



3月22日予定

白川中流域・大津の自然と歴史
～上井手沿いを歩く～



2月23日

子飼橋周辺
バードウォッチング



2008年1月19日

河川敷で
凧をあげよう！

